

【令和5年度全国学力・学習状況調査分析結果】

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立志賀小学校

○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【全国学力・学習状況調査結果】

《国語》

国語科においては、正答率では、県と同等の数値を示しました。問題形式では、「選択式」において県や全国よりも上回りました。しかしながら短答式や記述式での正答率は低い結果となりました。また、全国や県との「無答率」を比較すると、本校は「無答率が高い」ということが示されました。この無答率の高さが全体的な「正答率」に結びついているとも考えられます。観点別では県・全国に比べて「情報の扱い方に関する事項」においては、情報と情報の関係について理解し選択して回答できていました。しかしながら「読むこと」に関する長文読解の問題において、正答率が低く、無答率も高い傾向が見られました。長い文章や資料を読み取らないと解答にたどり着けない問題であり、最後までしっかりと読むことができにくかったことが要因の一つと考えられます。また「書くこと」に関する記述式の問題においても、全国や県と比較したところ、正答率が低い傾向が見られました。これは問題の難しさよりも、国語科の最終問題に位置づけされていたことが要因と考えられます。決められた時間内に問題を解ききること、つまり時間配分に弱みを示したといえます。日々の学習において時間内に解ききることや、文章をざっくりと読み、必要な情報を得るといった力の定着を図る必要があると考えられます。

《算数》

算数科においては、全般的に無答率が高く、さらに問題終盤での無答率が県・全国よりも高く、時間配分に弱みを示したことが要因と考えられます。観点別においては、「数と計算」では、県、全国と同様の高い正答率となりました。さらに「図形」の正答率は、県・全国よりも本校の正答率は高い結果でした。しかしながら、県・全国と同様に4観点の中で一番正答率が低い観点となりました。正答率が高い内容では、台形、正方形、正三角形の性質や意味を理解し、回答できていました。「データの活用」においては、問題の意図を理解し、思考しながら記述することの正答率が低いことや無答率が高いことなど課題が出た結果となりました。これは、日々の学習で、プログラミングを活用した学習を取り入れるとともに、児童が受け身的な学習にならないように自分で考えたり、友だちと自分の考えを交流したりする取り組みを繰り返し行う必要があると考えられます。

【今後の取り組み】 「全体的見通しを持ち、課題に取り組む」ことに弱みがあることから、課題全体の量を把握し、課題にかかりそうな時間を見積もったり、分かる問題から先に解いたりする「見通しを持つ」ことを授業でも取り入れていきます。具体的には、単元の始めに、全体的見通しを児童と共有します。また、1時間ごとに「本時のめあて」を提示します。「この時間には何が分かれば良いのか」を児童に示すことで、その時間の見通しを持つことをねらいとします。また、長文問題や、多くの資料を用いた問題から、効率的に情報を読み取り、必要な情報を選ぶ

力を伸ばすため、どの教科においても読み解く力の育成をめざした授業づくりをしていきます。時間を意識して取り組む力も重要と感じましたので、通常の単元テスト等においても取り組む時間を明確に示し、決められた時間内で課題をやりきる力を伸ばしていきます。

【児童質問紙より】学力調査と同日に行われた児童質問紙の結果を分析し、本校児童と全国との差が顕著である点について以下に示します。

《学習面》「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たり1時間以上勉強をする割合」では、県・全国に比べて割合が低い結果となりました。「国語の授業で、書いた文章の感想や意見を学級の友達と伝え合い、自分の文章のよいところを見付けているか」「5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていたか」などにおいても県・全国よりも低い割合になり、課題として挙げられます。

《規範意識》規則正しい生活面においては、「毎日同じくらいの時間に起床しているか・就寝しているか」という回答が県・全国よりも低い結果となりました。一方で学校の決まりを守ったり、いじめを絶対に許さないと考えたりする児童の割合が、大変高かったです。

《自己肯定感》「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問には、「楽しい」と答えた割合が県・全国よりも高い結果となりました。「自分には、よいところがあると思いますか」という回答も県・全国よりも高い割合で「ある」と回答しており、自己肯定感が高い児童が多いことが見られました。3校訓を徹底し、ルールを守ることで自分たちの生活がよりよくなると感じられた児童が多いと考えられます。また外部から来られた方々からも挨拶や掃除などの姿を褒められることも自己肯定感が持てる要因の一つであると考えられます。今後も、3校訓の徹底を継続し、高い規範意識を育てていきます。

《教科について》国語、算数ともに「好き」と回答した割合は県・全国に比べて低い結果となりましたが、国語・算数は「大切」と答えた児童は県・全国よりも高い結果となりました。好きだと思える授業を行うことにより、学習の理解を深めることができると考えられます。その結果、教科が「好きで大切」という気持ちになると考えます。

《ICTを活用した学習状況》これは、一昨年度から導入されたICT端末を調べ学習等においては使用する頻度は高いが、「意見交流」に活用するまでには至らなかったということが窺えます。ICTを有効に活用し、自らの学びを深めるために、より良い活用方法を探っていきます。

《教員との関わり》「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という回答は、県、全国よりも高い結果となったことから教育相談や日々の関わり、取組の成果が伺えたと考えられます。

《読書時間》「読書は好きですか」という回答は県・全国よりも高い割合となりましたが、休み時間や放課後、学校が休みの日などの読書時間は、とても短いことが分かりました。学校の図書室や公共の図書館等を利用する割合もあまり高くない値を示しました。

学校では、一斉に図書室で本を借りたり、市立図書館の定期貸出しを利用したりするなど、本に触れる経験を積み重ねていくとともに、体力向上やコミュニケーション能力の向上を図るため、体を動かして友だちと元気に遊ぶことも継続し、遊びと読書の両立を目指していきたいと考えます。ご家庭でも、本を読む時間をとっていただき、読書の楽しさに触れさせていただきますようお願いいたします。